

青森県経済統計報告

平成 22 年 5 月 7 日
企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（平成 22 年 4 月 1 日現在）…………… 1

県人口	1,373,997 人（対前月 5,089 人減少）
自然動態	600 人減少（出生者数 847 人、死亡者数 1,447 人）
社会動態	4,489 人減少（転入者数 4,069 人、転出者数 8,558 人）

2 本県の経済動向（平成 22 年 2 月・3 月の経済指標を中心として）

（1）経済概況

本県経済は、生産面に持ち直しの動きが広がっているものの、厳しい状況が続いている。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 製造業の生産動向 平成 22 年 2 月の青森県鉱工業生産指数(平成 17 年=100)は、季節調整済指数が 94.3 で、前月比 2.7%の上昇となり、2 ヶ月連続で前月を上回った。また、原指数は 87.4 で、前年同月比 15.9%の上昇となり、3 ヶ月連続で前年同月を上回った。 … 2
- (2-2) 雇用情勢 平成 22 年 2 月の定期給与は 220,771 円で前年同月比 0.5%減となった。総実労働時間は 149.6 時間で前年同月比 1.2%減、所定外労働時間は 8.4 時間で前年同月比 10.4%増となった。平成 22 年 3 月の有効求人倍率（季節調整値）は 0.32 倍で、前月と同数値となった。 … 3
- (2-3) 物 価 平成 22 年 3 月の青森市消費者物価指数（平成 17 年=100）は、総合指数が 100.2 となり、前月と同水準、前年同月と比べ 0.2%の下落となった。 … 4
- (2-4) 個人消費 平成 22 年 2 月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが 124 億 1,700 万円 で前年同月比 3.4%減と 15 ヶ月連続で、既存店ベースでは 4.4%減と 19 ヶ月連続で、いずれも減少となった。平成 22 年 3 月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は 6,381 台で、前年同月比 13.0%の増となり、8 ヶ月連続で前年を上回った。 … 5
- (2-5) 住宅建設 平成 22 年 3 月の新設住宅着工戸数は 273 戸で、前年同月比 44.8%減となり 3 ヶ月連続で前年を下回った。 … 6
- (2-6) 電力 平成 22 年 3 月の大口電力使用量は 2 億 3,584 万 kWh で、前年同月比 24.9% 使用量増となり、3 ヶ月連続で前年を上回った。 … 6

（3）景気動向指数（平成 22 年 2 月分）…………… 7

先行指数	44.4%（9 か月ぶりに 50%を下回った）
一致指数	50.0%（2 か月連続で 50%を下回った後 50%となった）
遅行指数	50.0%（3 か月連続で 50%を上回った後 50%となった）

（4）青森県景気ウォッチャー調査（平成 22 年 4 月期）…………… 8

3 ヶ月前と比べた景気の現状判断 D I ……46.7（前期比 12.4 ポイント増、11 期連続で 50 を下回る）
3 ヶ月後の景気の先行き判断 D I ……50.0（前期比 7.3 ポイント増、10 期連続で 50 を下回った後 50 となる）

1 青森県の推計人口（平成22年4月1日現在）

【概況】

平成22年4月1日現在の本県推計人口は、1,373,997人で、前月に比べ5,089人の減少となった。

○自然動態

出生者数が847人、死亡者数が1,447人で、600人の減少となった。

○社会動態

転入者数が4,069人、転出者数が8,558人で、4,489人の減少となった。

総人口の推移

(単位：人)

	総数	性別		対前月増減率	増減数	自然増減数	自然増減数		社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数
		男	女				出生者数	死亡者数			
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
21.4.1	1,385,598	651,094	734,504	-0.400%	-5,566	-513	814	1,327	-5,053	4,158	9,211
21.5.1	1,385,096	650,947	734,149	-0.036%	-502	-437	829	1,266	-65	4,232	4,297
21.6.1	1,384,450	650,589	733,861	-0.047%	-646	-464	796	1,260	-182	1,367	1,549
21.7.1	1,383,903	650,327	733,576	-0.040%	-547	-538	780	1,318	-9	1,468	1,477
21.8.1	1,383,441	650,121	733,320	-0.033%	-462	-430	804	1,234	-32	1,949	1,981
21.9.1	1,383,069	649,947	733,122	-0.027%	-372	-379	796	1,175	7	2,001	1,994
21.10.1	1,382,517	649,689	732,828	-0.040%	-552	-412	807	1,219	-140	1,538	1,678
21.11.1	1,381,946	649,441	732,505	-0.041%	-571	-496	789	1,285	-75	1,488	1,563
21.12.1	1,381,400	649,129	732,271	-0.040%	-546	-499	799	1,298	-47	1,258	1,305
22.1.1	1,380,834	648,752	732,082	-0.041%	-566	-537	781	1,318	-29	1,163	1,192
22.2.1	1,379,828	648,207	731,621	-0.073%	-1,006	-730	745	1,475	-276	1,090	1,366
22.3.1	1,379,086	647,769	731,317	-0.054%	-742	-480	763	1,243	-262	1,063	1,325
22.4.1	1,373,997	645,072	728,925	-0.369%	-5,089	-600	847	1,447	-4,489	4,069	8,558

3月中の人口動態の推移

(単位：人)

年月		平12.3	13.3	14.3	15.3	16.3	17.3	18.3	19.3	20.3	21.3	22.3
自然動態	出生者数	1,007	989	997	909	1,036	854	925	831	844	814	847
	死亡者数	1,207	1,127	1,141	1,262	1,279	1,522	1,318	1,296	1,327	1,327	1,447
	自然増減数	-200	-138	-144	-353	-243	-668	-393	-465	-483	-513	-600
社会動態	県外からの転入者数	5,133	4,764	4,170	4,746	4,532	4,133	4,191	3,722	4,045	4,158	4,069
	県外への転出者数	11,241	10,284	10,224	10,366	9,993	10,234	9,790	9,987	9,894	9,211	8,558
	社会増減数	-6,108	-5,520	-6,054	-5,620	-5,461	-6,101	-5,599	-6,265	-5,849	-5,053	-4,489
増減数計		-6,308	-5,658	-6,198	-5,973	-5,704	-6,769	-5,992	-6,730	-6,332	-5,566	-5,089

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17年は国勢調査人口（確定値）

※2 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17年が前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※3 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

2 本県の経済動向

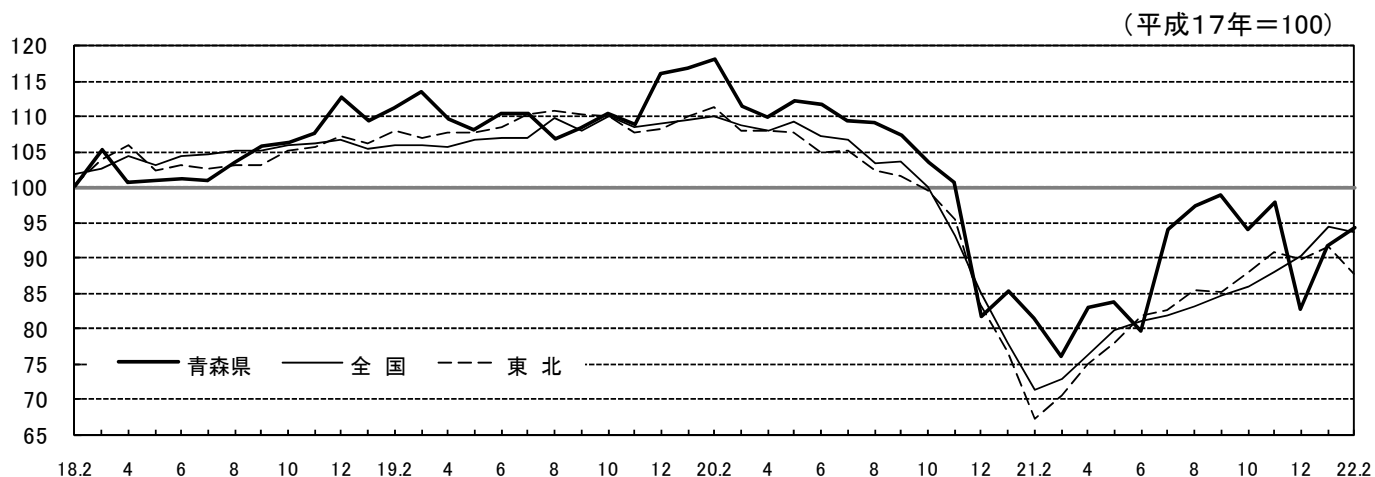
(2) 主要経済指標の動向

(2-1) 製造業の生産

平成22年2月の青森県鉱工業生産指数（平成17年=100）は、季節調整済指数が94.3で、前月比2.7%の上昇となり、2ヶ月連続で前月を上回った。また、原指数は87.4で、前年同月比15.9%の上昇となり、3ヶ月連続で前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、鉄鋼業、電気機械工業、化学工業などが上昇に寄与した一方、金属製品工業、食料品工業、一般機械工業などが低下し、鉱工業全体では2.7%の上昇となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移（季節調整済指数）

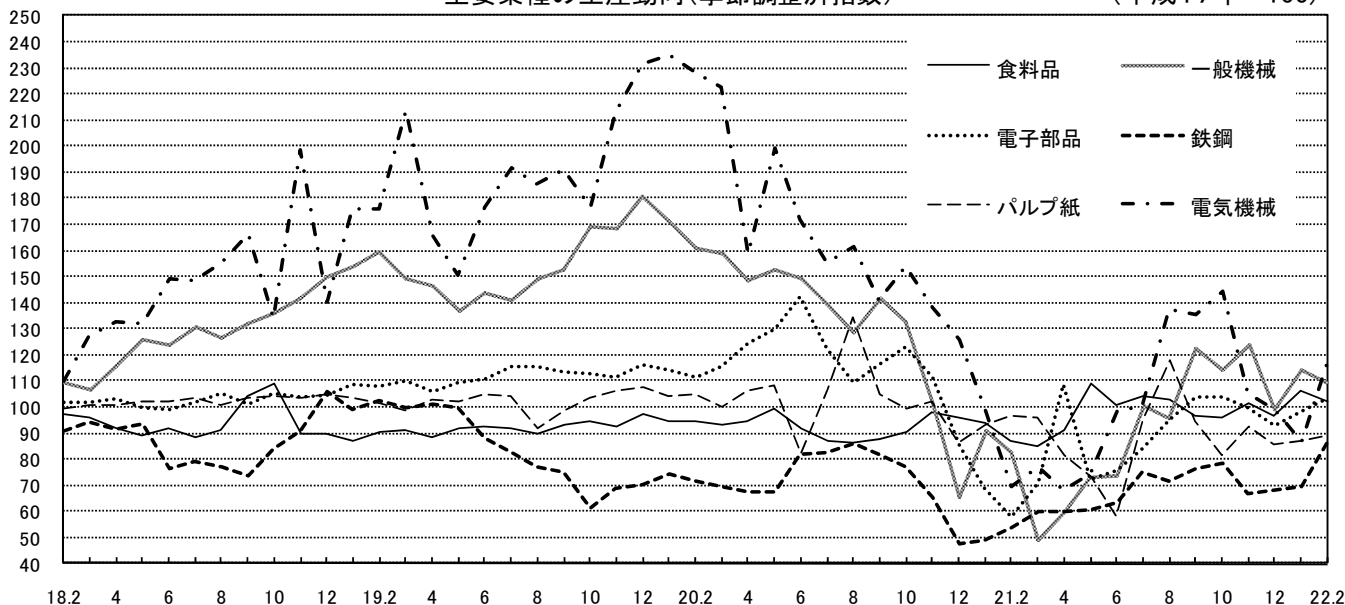


◎業種別動向（前月比） 鉱工業全体 +2.7%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
鉄鋼業	23.7	99.3	金属製品工業	-35.5	-94.3
電気機械工業	34.6	98.2	食料品工業	-4.1	-57.7
化学工業	46.1	63.5	一般機械工業	-4.3	-36.7
電子部品・デバイス工業	4.7	30.4	輸送機械工業	-36.6	-23.5
窯業・土石製品工業	16.7	23.0	印刷業	-7.0	-11.3

主要業種の生産動向(季節調整済指数)

(平成17年=100)



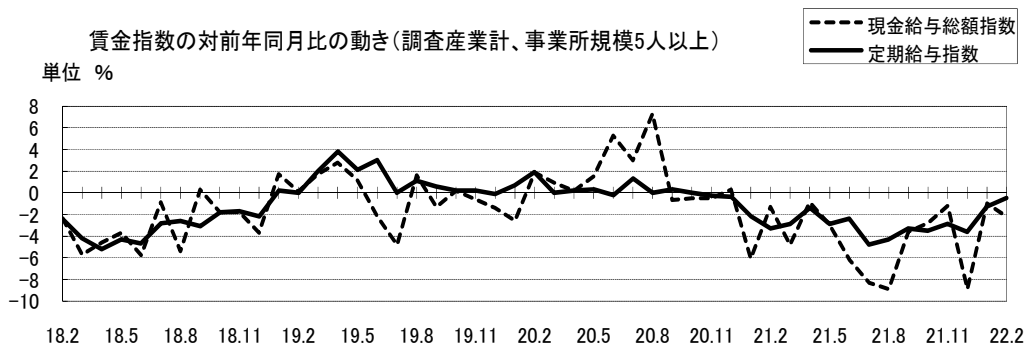
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数（速報）」

(2-2) 雇用情勢

平成22年2月の定期給与は220,711円で定期給与指数(平成17年=100)では95.9となり、前年同月比0.5%減(現金給与総額222,016円、現金給与総額指数81.4、前年同月比2.2%減)となった。実額で比較した定期給与の全国対比は84.2となった。

総実労働時間は149.6時間で、総実労働時間指数は93.9となり、前年同月比1.2%減となった。このうち、所定外労働時間は8.4時間で、所定外労働時間指数は84.8となり、前年同月比10.4%増となった。

平成22年3月の有効求人倍率(季節調整値)は0.32倍で、前月と同数値となった。



賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

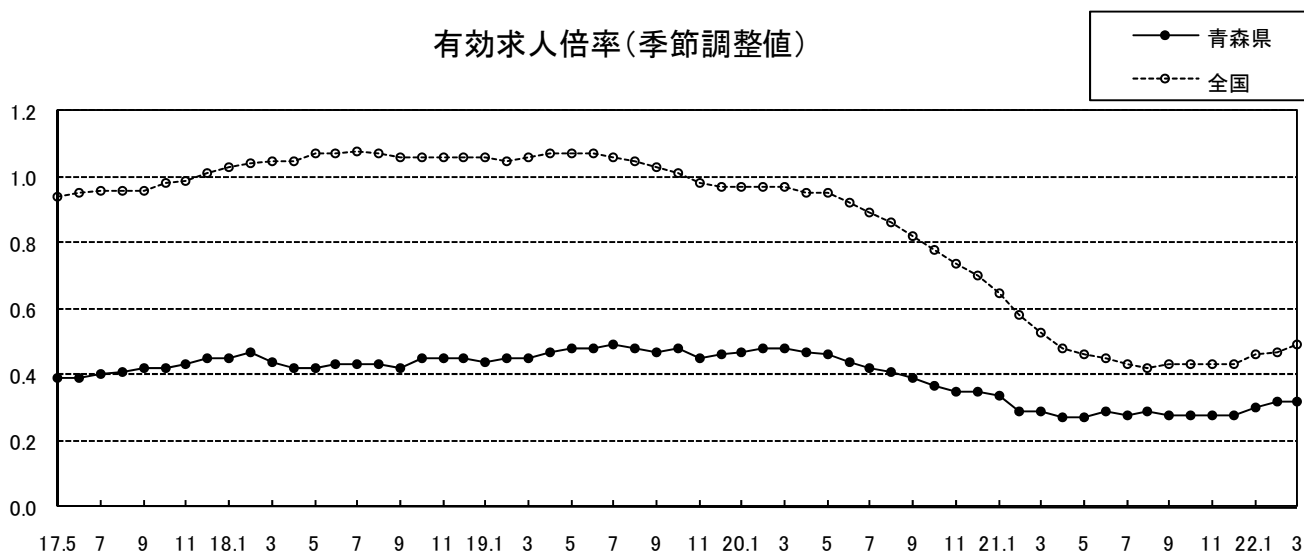
	実 数		指数(H17=100)		対前年同月増減率	
	県	全 国	県	全 国	県	全 国
現金給与総額	222,016 円	264,261 円	81.4	79.7	-2.2 %	-0.7 %
定期給与	220,711 円	261,910 円	95.9	96.9	-0.5 %	-0.4 %
特別給与	1,305 円	2,351 円	—	—	—	-26.1 %
総実労働時間	149.6 時間	143.3 時間	93.9	95.0	-1.2 %	0.6 %
所定内労働時間	141.2 時間	133.5 時間	94.5	95.3	-1.8 %	0.0 %
所定外労働時間	8.4 時間	9.8 時間	84.8	92.5	10.4 %	11.4 %

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

2.前年同月比は指数によって算出している。

3.平成22年1月分から、平成19年11月改訂の日本標準産業分類に基づいて結果の公表をしています。

資料:県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」



資料:青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

(2-3) 物価

平成22年3月の青森市消費者物価指数(平成17年=100)は、総合指数が100.2となり、前月と同水準、前年同月と比べ0.2%の下落となった。

生鮮食品を除く総合指数は99.8となり、前月と比べ0.2%の下落、前年同月と比べ0.3%の下落となった。

食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は97.3となり、前月と同水準、前年同月と比べ0.8%の下落となった。

総合指数が前月と同水準となった内訳を寄与度でみると、被服及び履物、交通・通信などの上昇、また、住居、光熱・水道などの下落が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ0.2%の下落となった内訳を寄与度でみると、食料、教養娯楽などの下落が要因となっている。

図1 総合指数の動き

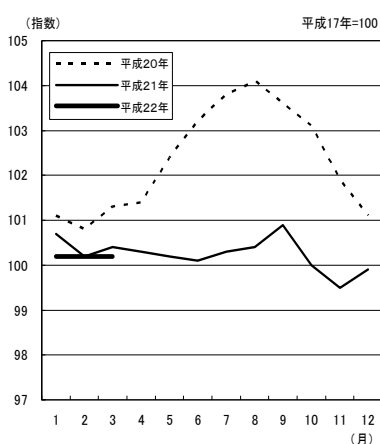


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

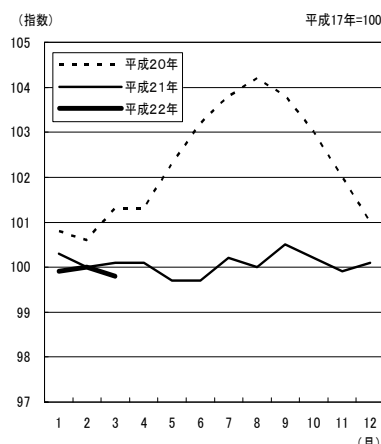
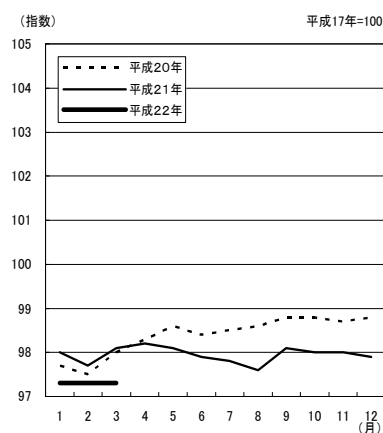


図3 食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成17年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の 帰属家賃を除く総合	食料(酒類を除く)及び エネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・ 家事用品	被服 及び履物	服 及び履物	保 険	健 康	交通・ 通信	教 育	教 娯	養 楽	諸 雑費
当月指数	100.2	99.8	100.6	97.3	103.1	105.8	98.2	107.0	91.8	98.4	97.2	99.6	102.1	92.8	101.3			
前月比(%)	0.0	▲0.2	0.1	0.0	0.0	2.5	▲0.5	▲0.5	▲0.3	1.9	0.1	0.3	0.0	0.2	0.2			
寄与度	0.00	▲0.19	0.08	0.00	0.00	0.15	▲0.10	▲0.05	▲0.01	0.07	0.00	0.03	0.00	0.02	0.01			
前年同月比(%)	▲0.2	▲0.3	▲0.3	▲0.8	▲0.8	▲0.1	▲0.7	1.3	▲4.6	2.2	0.5	1.7	0.2	▲2.1	▲0.3			
寄与度	▲0.20	▲0.28	▲0.25	▲0.51	▲0.23	▲0.01	▲0.14	0.14	▲0.13	0.09	0.02	0.18	0.01	▲0.20	▲0.02			

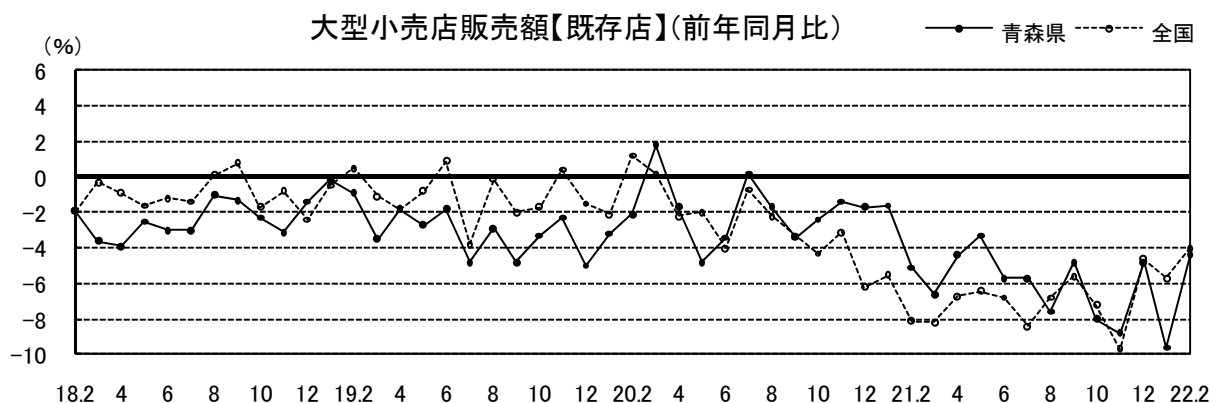
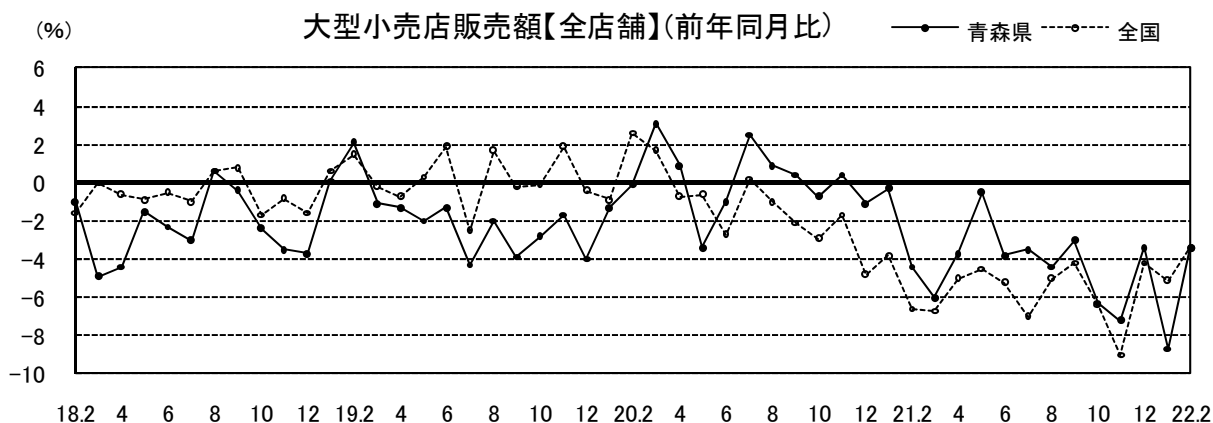
資料：県統計分析課「消費者物価指数月報」

※ 寄与度とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、総合指数の変化率に一致する。

(2-4) 個人消費

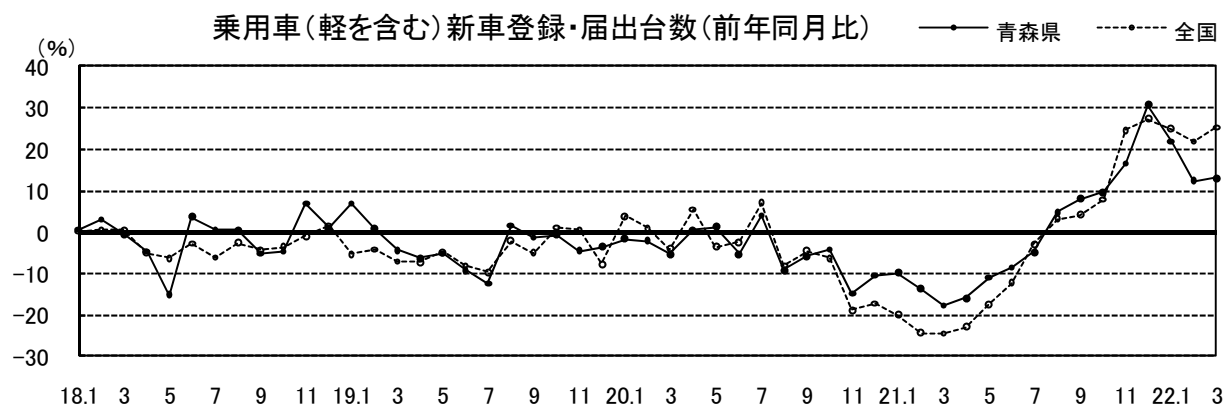
平成22年2月の大型小売店販売額は全店舗ベースが124億1,700万円で、前年同月比3.4%減と15ヶ月連続で、既存店ベースでは4.4%減と19ヶ月連続で、いずれも減少となった。飲食料品、衣料品などが不振であったことによる。

平成22年3月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は6,381台で、前年同月比13.0%の増となり、8ヶ月連続で前年を上回った。軽乗用車が前年同月を下回ったものの、普通車、小型車が増加したことによる。



資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」

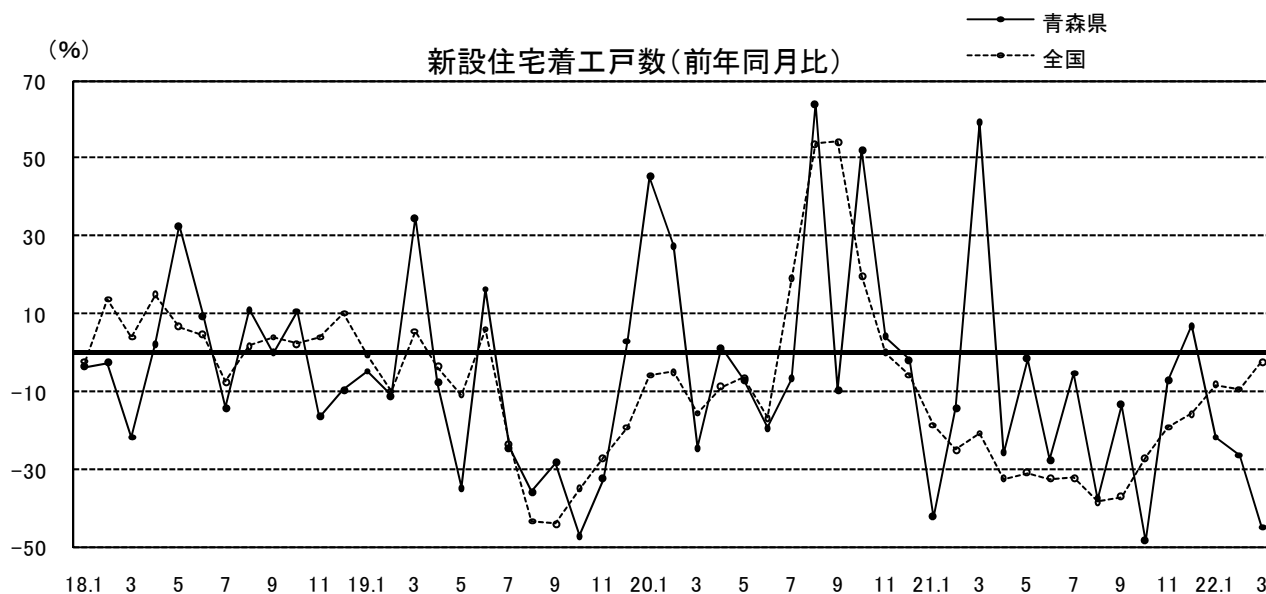
* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。



資料：青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」、日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

(2-5) 住宅建設

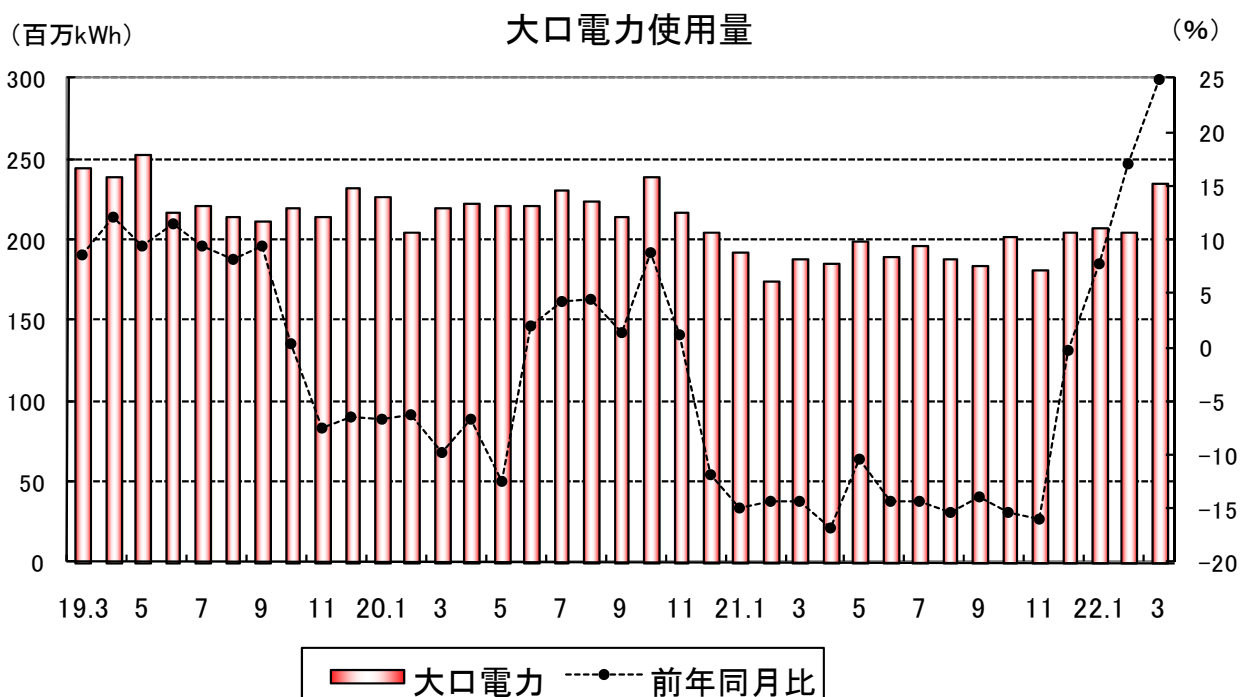
平成22年3月の新設住宅着工戸数は273戸で、前年同月比44.8%減となり、3ヶ月連続で前年を下回った。分譲が増加したものの、持家、貸家が減少したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

(2-6) 電力使用量

平成22年3月の大口電力使用量は2億3,584万kWhで、前年同月比24.9%増となり、3ヶ月連続で前年を上回った。



資料：東北電力(株)青森支店「電力需要実績」

(3) 青森県景気動向指数

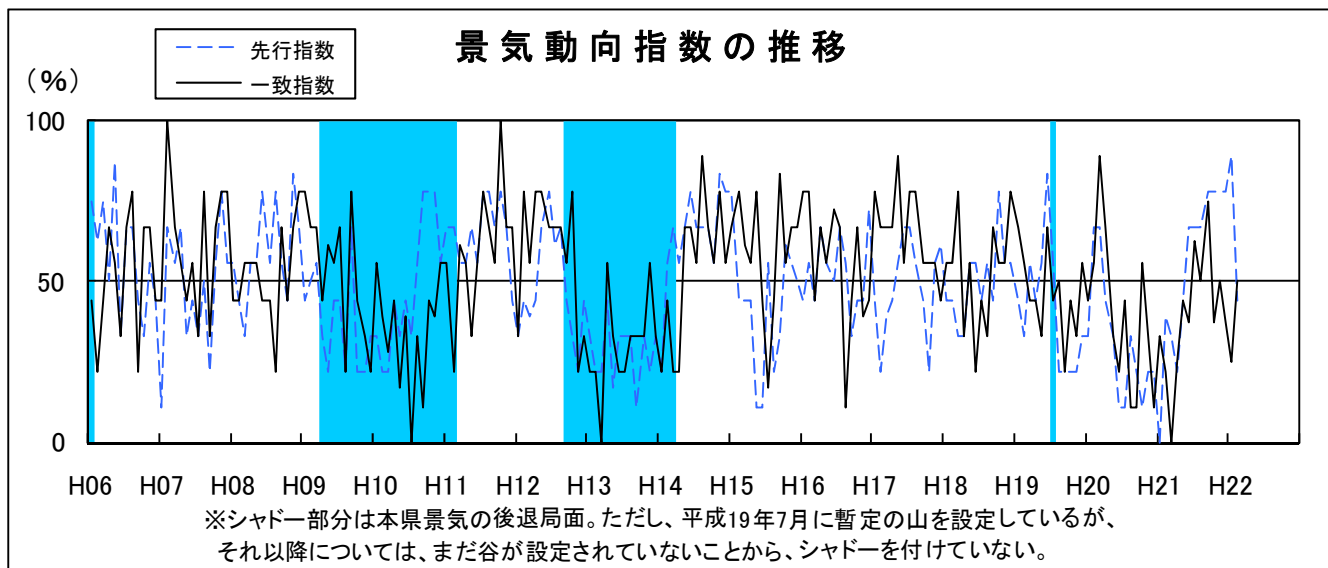
平成22年2月の青森県景気動向指数は、先行指数44.4%、一致指数50.0%、遅行指数50.0%となった。

先行指数は、9か月ぶりに50%を下回った。

一致指数は、2か月連続で50%を下回った後50%となった。

遅行指数は、3か月連続で50%を上回った後50%となった。

2月の一致指数は、消費、金融関連の指標がプラス、物流関連の指標がマイナス、生産、雇用関連の指標がプラス・マイナス双方に割れたことから、50%となった。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、5ヶ月前と比較しています）

プラスの指標		マイナスの指標	
先行系列（9指標中4指標がプラス）			
生産財生産指数	8か月連続	乗用車新車登録届出台数	10か月ぶり
新規求人倍率（全数）	9か月連続	新設住宅着工床面積	4か月ぶり
所定外労働時間指数	8か月連続	建築着工床面積	2か月ぶり
入職率（製造業）	2か月連続	企業倒産負債額	4か月ぶり
		中小企業景況DI	2か月連続
一致系列（8指標中4指標がプラス）			
大型小売店販売額（既存店）	2か月ぶり	鉱工業生産指数	3か月連続
大口電力使用量	2か月連続	電気機械生産指数	3か月連続
有効求人数（全数）	5か月ぶり	総実労働時間数（全産業）	2か月ぶり
日銀券月中発行高	2か月ぶり	海上出入貨物量（八戸港）	2か月連続
遅行系列（6指標中3指標がプラス）			
常用雇用指数（製造業）	6か月連続	勤労者世帯家計消費支出（実質）	2か月連続
1人平均月間現金給与総額	7か月連続	単位労働コスト（製造業）	10か月連続
青森市消費者物価指数（帰属家賃除く）	4か月連続	輸入通関実績（八戸港）	4か月ぶり

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

※一致系列の物流関連指標「東北自動車道IC利用台数」については、ETC割引（ETC搭載車は休日の高速道路上限1,000円乗り放題）が平成21年3月28日（土）・29日（日）から実施されたことによる影響を受けるため、当面の間、判定に用いないこととする。

(4) 青森県景気ウォッチャー調査

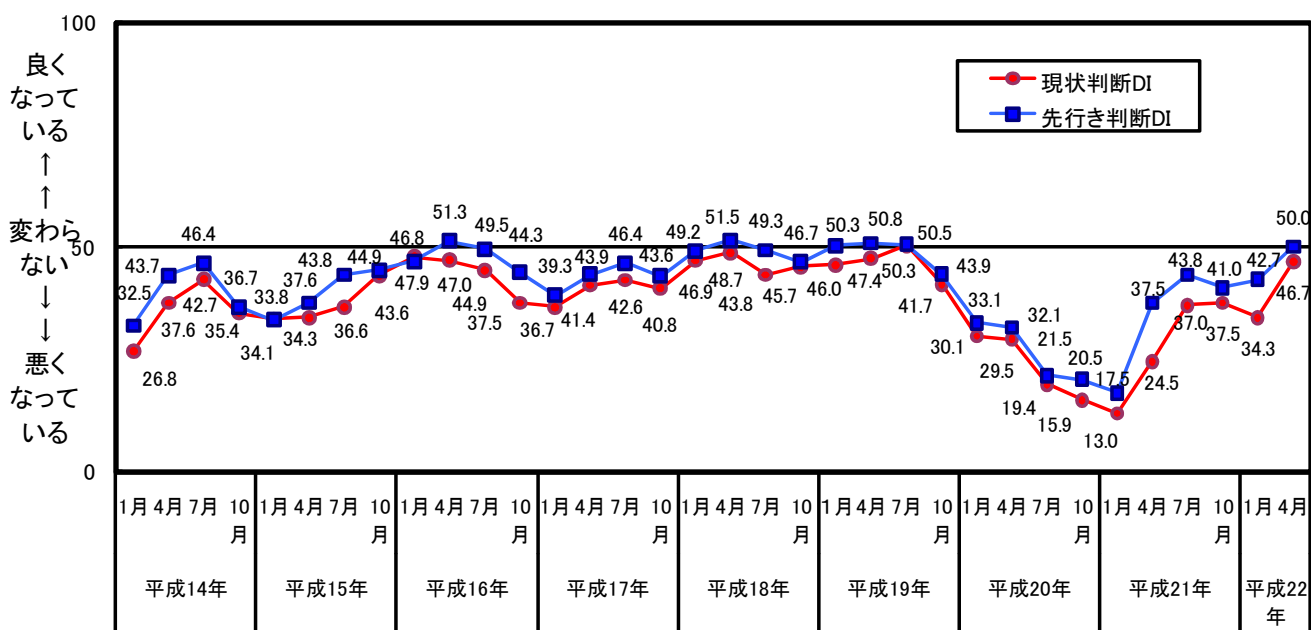
平成22年4月期の景気ウォッチャー調査は、4月1日～4月19日を調査期間とし、回答率は98%となった。

3か月前と比べた景気の現状判断DIは46.7で、前期調査を12.4ポイント上回った。

3か月後の景気の先行き判断DIは50.0で、前期調査を7.3ポイント上回った。

4月期は、景気の現状判断DIは、横ばいを示す50を11期連続で下回っているものの、2期ぶりに上昇した。先行き判断DIは、横ばいを示す50を10期連続で下回った後、50となった。

景気現状判断DI・先行き判断DIの推移



● 3か月前と比べた景気の現状判断

動	<p>前期調査と比べると、「悪くなっている」が12.1ポイント、「やや悪くなっている」が9.9ポイント減少、「変わらない」が7.6ポイント、「やや良くなっている」が13.3ポイント増加したことにより、全体では12.4ポイント上昇の46.7となり、景気の横ばいを示す50を11期連続で下回っているものの、2期ぶりに上昇した。</p>
向	<p>判断理由をみると、節約が恒久化している、人や物の動きがないという声もあったが、一方で、エコポイント商品の特需があった、売上や客数が緩やかだが上向いてきた、求人が増加してきた、製造業で、一部納期遅れを出すほどに仕事量が急激に増えたという声もあった。</p> <p>全地区とも依然として景気の横ばいを示す50を下回ったが、前期調査と比べて、各地区で10ポイント前後の増加があった。</p>

● 3か月後の景気の先行き判断

動	<p>前期調査と比べると、「悪くなる」が6.0ポイント、「やや悪くなる」が6.9ポイント減少、「変わらない」が4.6ポイント、「やや良くなる」が6.2ポイント増加したことにより、全体では7.3ポイント上昇の50.0となり、景気の横ばいを示す50を10期連続で下回った後、50となった。</p>
向	<p>判断理由を見ると、首都圏の景気が回復した後、青森県は遅れて進むと思う、先の見通しがつかないという声もあったが、一方で、新幹線全線開業、住宅エコポイント、子ども手当や公立高校授業料無料化への期待の声もあった。</p> <p>前期調査と比べて、全地区ともポイントが増加し、津軽地区では景気の横ばいを示す50となり、県南、下北地区では50を上回った。</p>

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

(参考)景気ウォッチャーによる景気判断理由(一部)

● 3か月前と比べた景気の現状判断理由

- ◎当社の高額商品が良く売れている。(旅行代理店=東青)
- 景気をみて我慢していたのが限界に達した感があり、動き出しはじめている状況にあるため。(設計事務所=津軽)
- 3/31でエコポイント商品の一部切り替わったデジタルテレビの駆け込み購入が大きく伸びた。4/1以降もデジタルテレビの伸びが見込まれ、景気に大きく貢献すると思われます。(家電量販店=県南)
- TV・新聞等で景気に関する報道(悪い内容)が報じられなくなったら、お客様の購買欲が上がった様な気がします。(一般小売店=下北)
- 今年は天候も悪く、自転車通勤、通学の方がまだ少ない様です。客単価は伸びませんし、客数も昨対を大きく下回っています。(コンビニ=東青)
- 目的買いのみの購買パターンが多く、買いまわりや衝動買いは少ない。又、買上げ単価が減っている。(百貨店=津軽)
- 会社関係の出張抑制、個人の出控え傾向は依然として続いている。電車や飛行機に乗っても空席の多いが目立つ感じがする。人が動いていないということを強く感じる。(旅行代理店=県南)
- △春になれば少しは良くなればとの期待はしたものの仕入業者の方々も全く物品の動きが鈍いと。全てが縮小の方向。(広告・デザイン=津軽)
- △消費の低迷が大きい。相当各家庭で控えているのではないかと感じられる。街に人出が減少しているようだ。節約が恒久化している。(一般飲食店=県南)
- ×3ヵ月前に比べてというよりも、悪い状況が継続している状態である。体力勝負と言うけれど、この状況が続くのであれば、事業そのものの継続をやめることも考えている会社は多い。(広告・デザイン=県南)

● 3ヵ月後の景気の先行き判断理由

- 新規の求人は、離職者の補充など限定的なものが多いが、サービス業などに増員を目的とした求人も始まっている点から、徐々に良くなって来ると思われる。(人材派遣=東青)
- 新幹線全線開業に向けて、各種セミナーが目白押しで、津軽地区の住民もこの機に活性化を図ろうという機運が確実に盛り上がってきた。さらに、2011年に弘前城築城400年を控え、モノ、ヒトの動きが今後活発化してくると思われる。(新聞社求人広告=津軽)
- 雪もなくなり、出掛けやすくなる時期ですし、当店も商品が豊富になってきます。(観光名所等=県南)
- 原子力発電所が本格着工になったとか。その分客数も増えると予想されます。(タクシー=下北)
- 商品単価は上り気味に感じるが、来店客数、販売点数が上向きにならない、商況もつかみ所が無い状態です。エコポイントの家電、補助金のエコカーに消費が回っている。(衣料専門店=東青)
- 全国的にみて、大企業や家電量販店等の売上は持ち直している見方はできるが、地方の景気に関しては依然として厳しい状況が続くと思われる。(商店街=津軽)
- 政府の支援だけで急に消費が増えるとは考えにくい。現実には生活は大変で、とにかく安い物に集中している。(一般飲食店=県南)
- △政府・地方自治体による雇用・経済対策が奏効しなければ、停滞が長引きそうだ。(商店街=東青)
- ×建設業界の指名停止の余波が当分続くと思われる。(ガソリンスタンド=東青)
- ×去年の公共工事の前倒し発注分も3月にはほとんど完工となったが、今年度分の発注は6月以降になる。従って手持工事が大きく低下するものと思われるから。(建設=県南)

記号の意味:◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」